

Day3 の発育遅延胚（5 および 6 細胞胚）は臨床的意義をもつか？

金子眞弓<sup>1</sup>、宮本有希<sup>1</sup>、佐藤学<sup>1,2</sup>、森本義晴<sup>1</sup>

1. 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

2. 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【目的】

胚発生において初期胚時点での細胞数は重要であり、胚発育の指標となる。当院では Day3 胚で 5 細胞以上を凍結、移植可能胚と定義しているものの、細胞数の少ない胚は臨床的意義があるか判断に苦慮する。そこで本研究は Day3 の 5 および 6 細胞胚の臨床成績を後方視野的に調査した。

【方法】

2021 年 1 月から 12 月に当院で採卵した 1104 症例のうち、Day3 で 5 細胞だった 321 個 (5C)、6 細胞だった 423 個 (6C) を対象とした。5C の妻平均年齢は 37.5 歳、6C は 37.3 歳であった。検討①：Day3 に凍結した 5C、6C それぞれ単一胚移植をした臨床妊娠率、流産率を比較した。検討②：5C および 6C を Day5/6 まで培養継続した場合の胚盤胞到達率、移植可能胚率、妊娠率、流産率を比較した。有意差検定にはカイ二乗検定を用いた。

【結果】

検討①：5C、6C の単一胚移植における臨床妊娠率は 10.0% (1/10)、28.6% (4/14) で差はなかった。また、5C および 6C の単一胚移植では 6C の 1 例を除いて妊娠継続例はなかった。検討②：5C の胚盤胞到達率 34.4% (87/253) は、6C (62.1% (197/317)) よりも低かった ( $p < 0.01$ )。移植可能胚率も 5C の 10.3% (26/253) が、6C (30.9% (98/317)) よりも低かった ( $p < 0.01$ )。臨床妊娠率は 5C が 30.0% (3/10) と 6C が 56.7% (17/30) で差はなかった。また流産率も 5C が 66.7% (2/3) と 6C が 35.3% (6/17) で差はなかった。

【考察】

5C、6C ともに培養開始から 3 日目で凍結し、単一胚移植の妊娠継続例が本検討では 1 例しもなく、Day3 での 5-6 細胞胚の移植の臨床的意義はあまりないと考えられる。一方で 6 細胞胚の胚盤胞発生能は 5 細胞胚に比べ高く、胚盤胞まで培養し発生能を確認した胚だけに選抜して移植を試みる必要があると考えられる。